

平成18年11月19日

〒590-0494
京都大学原子炉実験所
助手・小出裕章様

〒177-0041 4-25
蒼天社政治情報センター
代表・石川鐵也



前略 忙しさにかまけて重要な部分が抜けてしまい申し訳ありませんでした。改めて下記追加質問させていただきます。ご面倒とは存じますが、併せてご回答いただければ幸いです。

草々

— 記 —

5. 小出さん主張（太陽エネルギーは尽きることがありませんし、比較にならないほど膨大です）には同意しますが、本主張（少しでも早く太陽エネルギーの利用に向かうべきことは明らかです。そう思わないということであれば、むしろその根拠をお答えください）には二の句を継げません。小出さんの唱える太陽エネルギーの具体的な活用方法が不明瞭故に理解できないからです。

原発同様、太陽光にもメリットがあればデメリットもあるのです。晴天が続き過ぎると、作物や人体にも悪影響が出ますし、オゾン層破壊による紫外線の影響も指摘されています。私は以前、日照権問題で世間が騒然としていた時分に、太陽光発電パネルを製造、販売している某メーカーに取材し論じましたが、「太陽光発電はそんなに普及しませんから、今、太陽光権問題など取り上げないでください。売れなくなりますから」とお願いされた事実もあります。

小出さんは、太陽エネルギーを、一体どの様な方法でもって活用すべきとおっしゃるのでしょうか？「再生不能エネルギー資源の埋蔵量」などのデータを示され、「さ～これでどうだ」と言われましても、その応用方法などを具体的に教えていただかなければ、我々浅学者に理解できるはずもありませんし、政府の具体的な政策立案作業に参加させられるはずもないと思います。実践できなければ、それこそ机上の空論となりますので、「分野別エネルギー消費量」のデータを示されるだけでは詮無いこともご理解ください。

重要なのは、「膨大な太陽エネルギーを正しく活用するために、国、電力関連企業、エネルギーを大量消費している産業、運輸関連企業、その他の企業、省エネの効果はしれている各個人（小出さん主張）はどのように行動するか、できるか、だと思いますが、小出さんは、どの様にすべきと説くのでしょうか？

「膨大な課題があり、このような場所での議論にはふさわしくありません」などと言わず、是非ともその実践可能な方法をご教示いただきたい。

以上